

全木連時報

10月25日(月曜日)
(第559号)〔毎月25日発行〕
平成16年(2004年)

発行所
社団法人 **全国木材組合連合会**
代表者 後藤隆一
東京都千代田区永田町2-4-3 ☎(3580)3215
URL <http://www.zenmoku.jp>



木材産業シンボルマーク

昭和33年12月15日第三種郵便物認可

定価 年500円

『全木連時報』の購読料は年会費に含まれています。

秋期恒例の展示会を開催

全木協連優良国産材製材品展示会

全木連JAS製材品普及推進展示会

十月、秋本番となつて、全国各地で記念市などが開催されている。全木連関連では、九月に全木協連の優良国産材製材品展示会、八月～十一月にかけてJAS製材品普及推進展示会、十一月に全木連の優良素材展示会が開催又は開催予定である。全木連関連の展示会の主な目的は普及や組合活動の活性化などであるが、販売結果も重要な指標である。今年も、住宅着工になお堅調さが見られ、昨今の国産材の動きには、わずかながら伸びが見られるなど、ほの明かりながら期待を含めての展示会開催となった。

優良国産材製材品展示会

木曾官材市売協で開催



式典で挨拶する並木会長

全国木材協同組合連合会主催の優良国産材製材品展示会が九月二十五日、長野県木曾官材市売協同組合を会場に開催された。林野庁・中部森林管理局をはじめ長野県の支援、及び実行団体として長野県木連、木曾木材工業協同組合、木曾官材市売協同組合の協力のもとに実行し、当地では昭和五十一年度以来毎年開催となっている。市売に先立つての式典では、主催者を代表して、並木瑛夫全木協

会長が挨拶。来賓、買方、実行団体に礼を述べた上、景気回復の実感は薄いながら、国産材がわずかに伸びを示していることに期待したい、また、木材利用の推進に取り組んでいきたいと抱負を述べるとともに、買方に積極的な買い上げを要請した。次いで、来賓を代表して、中部森林管理局の川上利次森林整備部

JAS製材品展示会(千葉会場)

高得点の出品材が揃う

全木連、全市連、全買連共催による「第三十二回JAS製材品普及推進展示会」は、既報のとおり八月から十一月にかけて、全国七会場で開催される。うち、千葉会場が、十月六日に丸宇木材市売大栄浜市場で開かれた。出荷工場数は昨年より一工場増えて二十一工場、出荷量は二百三十m³であった。主催者である全木連の講評では、総体としては、非常に良く、出荷工場のうち十三社が審査の採点で九十点以上を得ており、うち、四社は満点、乾燥材も十三社に増えたと評している。出品材の市売に先立つて、市場内で式典が行われ、主催者、開催市場、買方組合の三者から概要次のような挨拶があり、市に臨んだ。まず、主催者を代表して、全木連後藤副会長——市況はさっぱりだが、住宅着工には期待している。JASは普及していない。展示会の時だけ、出荷者、市場、買方の努力によって来ているのが実状。

- 目次
- 一面 国産材製材品展示会・JAS製材品展示会開催
- 二面 十月は「木の日」の行事や住宅月間のイベント月
- 三面 平成十六年の木材需給量は八千八百九十五万二千m³の見通し
- 四面 景況調査 環境税の集會

ただし品確法の施行後は、設計者からの指定も多いと聞く。十一月には丸宇の北浜市場でもJAS展示会を開くので、買い上げをお願いしたい。

最後に市場買方組合長——JA S展の開催は、まだ二年目だが、丸宇だから、北から南まで集荷できたのだろう。市場長はじめ、がんばつてもらつた。出荷者は努力しているのだから表示ミスなどは指導の問題だ。表示以上に良いものも減点とは厳しい。よろしくお願いしたい。

次いで、丸宇木材市売の津村社長——去年より一工場多い二十工場からの出荷となつたが、JASは普及していない。展示会の開催に努力している市場にも、買い上げ者にも励ましの印がほしい。スーパーマーケットなどでは、商



立ち合いは、前半は良かったものの、後半までもたないといった結果であつた。昨今は、わずかながら秋需の動きが見られ、市売の動向にも期待がもたれたが、木材を取りまく景況の厳しさは変りないことをうかがわせた。

展示会自体については、式の挨拶ほかでも聞かれたが、年一回スケジュール的に行つても普及には結びつかない。別の方途の検討も必要である。

十月のイベント多彩に開催

● 木の日 ● 住宅月間

十月は、木材関係のイベントが多い。まず、思いつかぶのは、「木の日」の行事(別項)であるが、また、十月は「住宅月間」でもある。

住宅関係の百二十三団体で構成する住宅月間実行委員会が統一

品に生産者の名前まで出ている。こういう時代に合わせていかなければ、流通は本当におかしくなつてしまふ。よろしくお願ひしたい。

シンポジウムを開催するほか、各団体がイベントを行う。平成元年より、官民ともに、住まいや住まい方への関心を高め、豊かな住生活の向上に役立てようというもの。

今年の中核イベントは、十月七

十一月一日に開催された「スーパーハウジングフェア2004」。功労者、リフォームコンクール、まちなみ住宅一〇〇選」の各表彰のほかに、展示、情報提供が行われた。

十月十四日には、持続可能な住まいづくり・まちづくりをめざして「をテーマにシンポジウムが開かれた。そのほか、小中学生を対象にした教育の推進が企画されている。

「木の日」の催し 東京は十月二、三日に開催

十月八日は「木の日」。この日を中心に、今年も全国で「木の日」の催し物が実施される。

東京では、十月二、三日に、東京都と都木連の主催による「木と暮らしのふれあい展」が、木の街、江東区木場の都立木場公園で開かれた。

アトラクション、木工品やシイタケの即売、苗木プレゼントに木工教室、オークションと、企画は充実。今年は二十四回目と回を重ね、主催者側も自然体で対応している。「木の日」の行事を日比谷公

園で始めた昭和五十年代に比べれば、はるかに進化している。

十月一日は「都民の日」で、都内の公立校は休日であり、その翌日からの開催であることから日柄は良く、特に二日は好天に恵まれて多くの人出でにぎわつた。しかし、三日はあいにくの雨、それも大雨で、残念ながら来場者の足もくじかれた格好。しかし、全体としては、木材のPR、木を知ってもらふ役目は大いに果たしたものである。



(写真上)今年の「木の日」・にぎわうオークション
(写真下)昭和56年の「木の日」パレード

企業経営に安心を提供します
全木連グループの各種共済制度

おかげさまで30年
中型グループ共済

などの備えに ケガ・病气入院	従業員のために 中型グループ	施設賠償 PL共済	第三者への事故対策に	
	経営者のために 大型 L型 無配当型	各総合保障 プラン	木退共	従業員の退職金の準備に
			積立終身	経営者の退職金などの準備に

全国木材協同組合連合会

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-4-3
TEL 03-3580-3215(代)

(単位：千³m)

木材(用材)の需給の実績と見通し

年次	需				要				供				給			
	総数	製材用	合板用	パルプ・チップ用	その他用	総数	国産材		工場残材		丸太	製材品	人		その他	
							丸太	林地残材	丸太	丸太			チップ	合单板		
平成13年	91,245	37,087	13,074	38,706	2,377	91,245	16,757	35	6,319	15,942	14,340	25,104	8,659	2,019		
14年	88,125 (96.6)	34,856 (94.0)	13,226 (101.2)	37,607 (97.2)	2,436 (102.5)	88,125 (96.6)	15,980 (95.6)	95 (271.4)	7,174 (113.5)	14,865 (93.2)	13,694 (95.5)	24,791 (98.8)	8,101 (93.6)	2,097 (103.9)		
15年	87,184 (98.9)	34,766 (99.7)	12,810 (96.9)	36,979 (98.3)	2,629 (107.9)	87,184 (98.9)	16,005 (100.2)	143 (150.5)	7,951 (110.8)	14,398 (96.9)	14,088 (102.9)	24,337 (98.2)	8,022 (99.0)	2,294 (109.4)		
当初見通し	87,361 (100.2)	34,315 (98.7)	13,082 (102.1)	37,191 (100.6)	2,773 (105.5)	87,361 (100.2)	16,530 (103.3)	199 (139.2)	8,638 (108.6)	14,108 (98.0)	13,467 (95.6)	24,468 (100.5)	8,022 (100.0)	2,473 (107.8)		
見直し	88,952 (102.0)	34,787 (100.1)	13,800 (107.7)	37,567 (101.6)	2,798 (106.4)	88,952 (102.0)	16,426 (102.6)	199 (139.2)	7,879 (99.1)	14,216 (98.7)	14,361 (101.8)	24,562 (100.3)	8,253 (102.9)	2,463 (107.4)		

資料：平成13年～平成15年は林野庁「木材需給表」、平成16年当初見通しは平成16年3月、平成16年見直しは平成16年9月に算定した数値である。
 注：1.輸入材のうち、製材、合单板、チップ、パルプ及びその他は、丸太換算材積である。
 2.本表には薪炭材及びしいけ原木を含まない。
 3.平成13年からは、輸入の構造用集成材が需要のその他に含まれている。
 4.内は、工場残材及び解体材・廃材を利用した木材チップの需給量であり、製材用等には含まれていない。
 5.()内は、前年比(%)である。
 6.数値の合計値は、四捨五入のため一致しないものがある。

林野庁は、九月三十日に木材需給対策中央協議会を開催し、三月に策定した平成十六年の木材(用材)需給見通しを見直した。
 それによると、平成十六年の需給量は、前年比二・〇%増の八千八百九十五万二千³mと見通されている。当初の見通しより、百五十九万一千³m増えることになる。

需要面では、製材用、合板用、パルプ・チップ用、その他用とも、当初見通しを上回り、かつ、前年比増加である。住宅着工、紙パ需要が堅調であることによる。
 これに対し、供給は、国産材、輸入材とも増加が見込まれている。

平成16年の木材需給見通し上方修正 前年比二・〇%増の八千八百九十五万二千³m

また、今回の見直しに先立って、平成十五年の木材需給量が確定し、公表された。需給量は、前年比一・一%減の八千七百八十八万四千³mであった。

16年見通し

【需要】
 製材用は、前年比〇・一%増の三千四百七十八万七千³m。輸入丸太の減少が見込まれるが、国産丸太、輸入製材品の供給増加が見込まれる。
 合板用は、前年比七・七%増の一千三百八十万³m。国産丸太、輸入丸太、輸入合单板とも供給増加

【供給】
 供給面では、国産材は、前年比三・〇%増の一千六百六十二万五千³m。輸入材は、一・八%増の七千二百三十二万七千³mと見通されている。
 輸入材の中では、丸太は前年比減だが、製材、合单板、チップ、

その他用は、前年比六・四%増の二百七十九万八千³m。国産丸太、輸入丸太は前年並み、その他(集成材など加工材)は供給の増加が見込まれる。

が見込まれる。国産丸太については、数量は、わずかであるが、今回高い伸びを示している。
 パルプ・チップ用は、前年比一・六%増の三千七百五十六万七千³m、国産丸太、輸入丸太、輸入チップ、輸入パルプとも供給増加が見込まれる。

15年需給量

【需要】
 用材の総需要量は、前年に比べ九十四万一千³m(対前年比一・一%)減少し、八千七百八十八万四千³mとなった。

【供給】
 用材の国内生産量は、合板用の

これは、木造住宅着工戸数は前年より増加したものの、パルプ・チップ用材が解体材・廃材等の利用増加などに伴い六十二万八千³m減少するとともに、合板用材が輸入量の落ち込みにより四十一万六千³m減少したことによる。

丸太生産量の増加などにより、前年に比べて七万三千³m増加し、一千六百四十四万八千³mとなった。
 用材の輸入量は、国内の用材需要量の減少に伴い、前年に比べ百一十四万四千³m減少し、七千三百六十九万七千³mの内訳は、丸太が四十六万七千³mの減少、木材製品が五十四万七千³mの減少であった。

木材製品の輸入では、製材品が三十九万四千³m、構造用集成材等のその他木材製品が十九万七千³m増加し、合板等が六十万五千³m、木材チップが四十五万四千³m、木材パルプが七万九千³m減少した。

木材(用材)自給率は、用材の輸入量が一・四%減少し、国内生産量が〇・五%増加したことから、前年に比べ〇・三%ポイント上昇し、一八・五%となった。

景況調査 = 全木協

9月分集計表 ()内は実数

〔流通部門〕 モニター数97 回答数75 回収率77%

当月の状況			
販売量	増加40% (30)	変わらず48% (36)	減少12% (9)
仕入量	増加31% (23)	変わらず44% (33)	減少25% (19)
販売価格	上昇3% (2)	変わらず94% (71)	下降3% (2)
仕入価格	上昇8% (6)	変わらず89% (67)	下降3% (2)

来月の見通し			
販売量	増加27% (20)	変わらず68% (51)	減少5% (4)
仕入量	増加23% (17)	変わらず65% (49)	減少12% (9)
販売価格	上昇8% (6)	変わらず91% (68)	下降1% (1)
仕入価格	上昇12% (9)	変わらず83% (62)	下降5% (4)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	24% (15)	70% (44)	6% (4)
南洋材	13% (8)	80% (49)	7% (4)
北洋材	18% (11)	75% (46)	7% (4)
国産材	11% (7)	69% (45)	20% (13)
建材	6% (4)	79% (48)	15% (9)

乾燥材取引の頻度	高い	ほどほど	低い
	45% (31)	54% (37)	1% (1)

〔製造部門〕 モニター数97 回答数71 回収率73%

当月の状況			
販売量	増加41% (29)	変わらず45% (32)	減少14% (10)
仕入量	増加27% (19)	変わらず51% (36)	減少22% (16)
販売価格	上昇7% (5)	変わらず87% (62)	下降6% (4)
仕入価格	上昇18% (13)	変わらず74% (52)	下降8% (6)

来月の見通し			
販売量	増加37% (26)	変わらず53% (38)	減少10% (7)
仕入量	増加27% (19)	変わらず62% (44)	減少11% (8)
販売価格	上昇8% (6)	変わらず88% (62)	下降4% (3)
仕入価格	上昇14% (10)	変わらず78% (55)	下降8% (6)

3か月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	26% (9)	71% (24)	3% (1)
南洋材	9% (2)	86% (19)	5% (1)
北洋材	34% (11)	63% (20)	3% (1)
国産材	13% (7)	66% (34)	21% (11)

プレカットの動向	1ヵ月以内	1ヵ月	1ヵ月以上
受注後、加工までの待ち時間	23% (5)	54% (12)	23% (5)

「地球温暖化防止のための明日の森林を創る会」(仮称)「林業木材関係団体、地方自治関係団体、国会・地方議員団体、環境団体、消費者・市民団体などで構成)は、十一月九日、東京の日比谷野外音楽堂で、「地球温暖化を考える緊急市民集会イン東京」(環境税でみどり豊かな森林を取り戻そう)を開く。

京都議定書で、我が国が約束した二酸化炭素(CO₂)排出量六%の削減(90年比)のうち、森林による吸収量三・九%の達成が危ぶまれている状況に対し、地球温暖化防止のための明日の森林づくりについて考えようという趣旨。

森林に大きな役割が期待される半面、最近の林業・木材産業の不振は顧みられることもなく、放置されてきたのが実状。森林整備の担い手である林業・木材産業の活性化をはかるとともに、財源が確保されたうえで、強力な政策の推進が求められる。そのための環境税創設に向けた集会である。

十一月九日に市民集会
地球温暖化防止・環境税創設をめざす

我が国の排出削減の状況は、90年比六%の削減義務に対して逆に、02年度では七・六%増加しているため、計十三・六%以上の削減が必要になっている。

政府では、来年度からの「地球温暖化対策推進大綱」の第二段階に向け、新しい目標を策定中である。いずれにしても大幅な削減が必要となるのは明らか。

政府の審議会も温暖化対策税(環境税)の導入を提言している。当然、経団連をはじめ産業界は強く反対しており、今後の展開が注目される。

林業・木材産業の発展のために

お役に立ちます

林業・木材産業信用保証

推進資金(利率1.5%)、改善資金(無利子)他
ご利用ください。

公的機関が保証します

独立行政法人 農林漁業信用基金

後楽事務所(林業部門)

副理事長 加藤 鐵夫

〒112-0004 東京都文京区後楽1-7-12(林友ビル5階)

TEL 03(3813)5371 FAX 03(3812)8842

ホームページアドレス <http://www.mmjp.or.jp/kikin>

メールアドレス kanrisitu@tokyo.email.ne.jp

